

アルミがつくる未来空間

ecomms

9
2004.6

ALUMI ART



最新「アルミ家具」特集

FROM MILANO SALONE

世界で、日本で注目のアルミ家具
ecomms神宮前ショールームオープン

ecomms [H174K] 9 2004

2004年6月28日発行(生開6回) 第9回 発行元: SUS株式会社 〒424-0103 静岡県静岡市清水区羽根105-1 TEL.0543-61-0061 FAX.0543-61-0063 この印刷物は、環境保護のため大豆油インクを使用しています。
ecomms fit 静岡ショールーム 〒422-8007 静岡県静岡市駿河区色部54-6 TEL.054-655-1851(代) FAX.054-655-1852 東京ショールーム 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-21-1 TEL.03-5413-7720 FAX.03-5413-7723
九州エクスプレス 〒841-0008 佐賀県藤田市長生が丘7-38 TEL.0942-67-3227(代) FAX.0942-67-3205

0406-23000(1)



ご意見募集 ecomms では、よりフレンドリーで充実した情報誌を目指していますので、ご意見・ご感想や内容に対するご要望等何なりとご自由にお寄せください。



SUS株式会社 代表取締役社長

石田保夫

“なぜ、アルミなのか”

eoms fitの販売を開始してから、最も多くたずねられた質問です。アルミに関するメリット、デメリットを詳細に説明した後でも、このことはよく質問されました。

“アルミの良さはよくわかった。でもなぜ木でもなく、鉄でもなく、アルミなのか”理由の羅列を求めているのではなく、単純明快でわかりやすい理由を多勢の人が求めていることがわかりました。

なぜアルミなのかという理由をあげれば、軽さ、精度、素材の美しさ、加工性、リサイクル性、生産効率、そしてライフサイクルコストなど数多くあげることが出来ます。もちろん、価格や熱膨張性などの欠点もあり、メリット、デメリットを総合的に判断して、アルミが良いと考えているわけですが、しかし、総合的に判断するということは、各項目について検討し、時間をかけて冷静に判断するという印象があります。一般的にアルミが良いと言

った時には、もっと感覚的に判断しているように思います。

アルミがもつインテリジェンス

最近、私はアルミを活用する技術は、積み重ねの技術だと思おうようになってきました。押し出し断面のディテール形状や、それらを組み合わせるはめ合い技術について特にそのように感じています。何度も何度もアルミを活用し経験することで、断面形状がより研ぎすまされてきます。はめ合い技術についても同様で、経験すればするほど、また知恵や工夫を織り込めば織り込むほどレベルが上がってくると思います。不思議な素材だし、面白い素材だと感じています。

今、なぜアルミなのかと問われれば、私はアルミにはインテリジェンスがあるからだと言えます。短時間で精密にかつ安価で形をつくれる金属素材は、現段階ではアルミ以外にはない

と思います。融点の低さや素材のやわらかさなど欠点はあるものの、それらをはるかに上回る長所を備えています。

アルミの断面からインテリジェンスを引き出すのは、私達自身であり、その断面の中にどれだけ知恵や工夫が盛り込めるかに勝負がかかっているとも言えます。精密な断面や組み合わせのシステムを突き詰めることは、手先が器用で几帳面な日本人に、特に向いているのではないのでしょうか。

実績、そして新たな提案

SUSは、実験検証のために、eoms hall, house, factoryというアルミ建築を完成させ、色々なノウハウを得ることができました。アルミ建築でこれが決定打だというものはあるわけではなく、様々な構造形式や建築デザインを実現していく中から、押し出し部材やディテールが考案され、選

択利用できる範囲が広がっていくものだと思います。私達はアルミ建築を更に発展させるために新たに計画を進め、新しい提案をしようと考えています。

今までアルミ建築を実現してきた、3点ほど気付いた事があり、その内容について説明します。

①アルミ建築はコスト面もあり、軽さを追求すべきだと言ってきました。しかし、構造形式により重量は異なるもの、構造材よりも屋根、壁、

床材の方が重量ははるかに重く、軽量化に注意してもアルミの全体重量は大きくは変わらないように思いました。軽量化を心掛けることはむしろ必要ですが、かかるものはかかると言ったらいいのでしょうか。

②アルミ建築は、アルミという金属特性を考慮した全体構成とすべきであり、既存の建築形式とは一線を画す必要があるように感じています。

す。木材や鉄骨と同じようなディテールで使うのであれば、アルミ建築としての新しさは提案できないのではないのでしょうか。

③軽量化を図る意味からも、全体構成はシンプルさを追求することが必要だと思えます。そのためには、アルミの構造材やパネルは、構造的な役割だけでなく、他の機能も受け持つ複合的な使い方が求められていると思います。

今から一年半前にeomsの事業をスタートさせましたが、その当時は“なぜアルミなのか”と問われて、明確に答えることができませんでした。最近ようやくその問いにも答えられるかなと思えますが、新たなアルミの特長やメリットに気付かされることも多くなったように思います。アルミのもつ可能性に更に挑戦して、未来空間づくりに取り組んでいきたいと考えています。

MILANO SALONE

INTERNAZIONALE DEL MOBILE

最新「アルミ家具」特集

ecomms ミラノ・サローネを語る

2004年も賑やかなラインナップの家具市場。ミラノ・サローネで発表された世界のアルミ家具、そして日本国内で注目のアルミ家具などecomms独自の切り口で最新アルミ家具事情を特集します。



アルミがつくる未来空間

ecomms 2004. No.009
6/28

C o n t e n t s

4 ecomms 最新「アルミ家具」特集 ミラノ・サローネを語る!

11 日本のアルミ家具 — ALFACTO (アルファクト)

13 ecommsのアルミ家具 — 神宮前ショールームOPEN

2 なぜ、アルミなのか — 石田保夫

23 エコムスファクトリー完成

31 納品事例 — 東京都:T邸・東京都:スタイルックスデザイン(株)・日本大学:畔柳教授・JR黒崎駅

35 アルミ構造設計入門⑤ — 飯嶋俊比古

37 シリーズ アルミ建築探訪④ — ゼロベースから構築された家「岸和田の住宅」

41 ecomms第1回デザイン・コンペティション2004開催予告

42 建築家無料相談会 — 平沼孝啓、秋山雄威、島村芳三、清峰芳

47 アルミ小物シリーズ⑤ — 工芸作家 小山泰之

49 椅子の名品たち③ — 「赤と青の椅子」内藤博義

51 セミナー報告⑱ — 中式下午茶 勝又綾子

52 セミナー報告⑲ — Welcome Flowers!! 花と暮らす 兼田名美

53 セミナー報告⑳ — はじめての人にもわかるワインの魅力 種本祐子

54 アルミアートの世界 — 夏池 篤

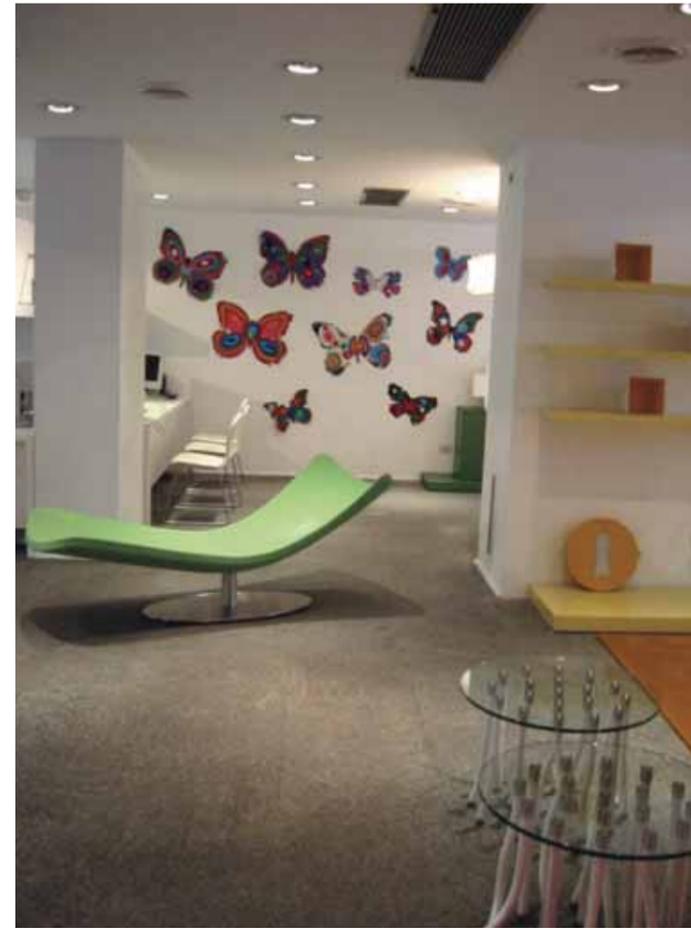
55 個展報告 — するがクリエイティブ

56 個展予告 — 松谷和子

57 カタログ紹介 — バックナンバー

58 トピックス





MILANO SALONE

INTERNAZIONALE DEL MOBILE

「ミラノ・サローネってなに？」

ミラノ・サローネとは、正式には「ミラノ国際家具見本市」という見本市です。ヨーロッパではパリ、ケルン、バレンシア、ミラノの四都市で開かれる家具見本市が特に重要なものとされていますが、中でもモダンデザイン家具の発信地として知られるミラノの家具見本市は、出展する企業数、来場者数など全てが世界最大規模の展示会です。

「どんな展示が行われているの？」

ミラノ・サローネの大きな特徴は見本市開催期間中（約1週間）、「フィエラ」と呼ばれる展示場での国際見本市のほかにミラノ市内各所でショールーム、フリースペースなどを使った100を超えるデザインイベントや展示会が大規模に開催されている点です。「フォーリフィエラ（展示会場の外の意）」と呼ばれるこれらの市内イベントでは、有名無名を問わず世界各国のデザイナーの情報発信が行われ、特に近年では世界のインテリア・家具デザイン発信源としての価値を高めています。





写真1:MAGIS (マジス)「Me too」

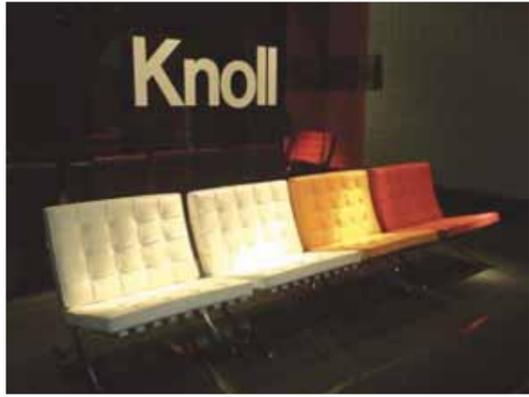


写真2:KNOLL (ノル)



写真3:DRIADE (ドリアデ)

寺田尚樹 (てらだ なおき)
1989年 明治大学工学部建築学科卒業。1989-91年 Palfy and Associates (オーストラリア・シドニー) 勤務。1992年 Archadd Italia (イタリア・ベスカーラ) 勤務。1992-94年 Architecture Association School of Architecture (ロンドン・イギリス) 卒業。1995-98年 フリーで設計活動。1999年 K/O Design Studio。1999年 明治大学非常勤講師。2003年 teradadesign 主幹。2004年 ecoms fit 東京ショールーム (神宮前)「ファニチャー&インテリアデザイン」担当。

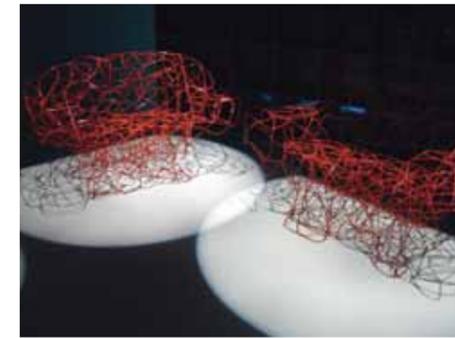
今年もミラノは盛況の予感だった。 建築家・デザイナー 寺田尚樹

空港から市内に向かうと、地下鉄のコンコースやロードサイドの看板、タクシーのボディーにもサローネの告知がされ、各デザイン誌も展覧会のガイドやナイトスポット、レストランを紹介する冊子等のフリーペーパーを配布し、街ぐるみのお祭りといった雰囲気、嫌が応にも期待感が高まった。ところが、今年は毎年盛大なオーブンディングレセプションを行うカッペリーニがイベントを行わず、冒頭から出鼻

をくじかれた感のあったサローネのスタートであった。例年ここではコンセプトが斬新なプロトタイプや、驚くようなディスプレイで触発される事が多く、今年もそれを期待していたのだが残念だった。サローネ会場で印象的だったのは、マジス(MAGIS)の子供向けのコレクション「Me too」だった。樹脂の成形技術を駆使して独自のウィットに富んだイメージを作り上げてきたマジス

社だが、ターゲットを子供に据えることでその提案がより魅力的に感じられた。(写真1)
またミース・ファン・デル・ローエのバレルセロナチェアをワイヤーチェアにしたノル(KNOLL)のコレクションも印象的だった。今回のサローネの傾向として既出の製品の素材や色を変えたパリエーション展開が多い中で、このバレルセロナチェアもレザーをポップなオレンジやイエローに張り替えただけでもしれないが、それによつて却つてフォルムが新鮮に感じられ、名作といわれたその椅子の完成度を改めて実感した。(写真2)
それとは違った意味で興味深かったのがドリアデ(DRIADE)から発表されたワイリッパ・スタルルクの椅子だった。

(写真3)一見してジオ・ポンティの名作「スーパーレジーエラ」とわかるフォルムだが素材は木ではなくスチールで重く、オリジナルのコンセプトとは相反するアプローチには驚いた。これがスタルク流のジョークなのかは知るべくもないが、そうだとしたらそれはスタルクだから許されるのではない。
今年もスタルクやアントニオ・チツェリオなどが多くのメーカーからスタイルの異なるデザインを量産し大活躍だった。が、視点を変えてみると、メーカー側のスターデザイナーを起用し大きな冒険はしない方針、とも感じとれる。トルトーナ地区やサテリテ会場など若手が発表する場もあるのだが、業界をリードするような企業の「冒険」を、来年は期待したいと思う。

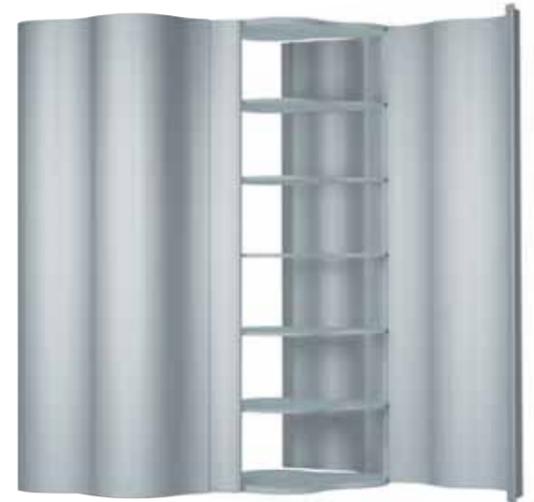


写真提供・取材協力 FUJITA DESIGN Lab.

Erreti (エレッティ)

「amoremio」 Denis Santachiara

ecoms同様、アルミ押し材を組み合わせたユニット式の家具。気鋭なデザイナーとして名高いデニス・サントキアラの作品。ブランド名である「amoremio」の文字が押し部分に取り入れられているところなど遊び心にも注目したい。



Alias (アリアス)

「LAYOUT」 Michele De Lucchi

ミケーレ・デ・ルッキによる押し材の美しい曲線によって構成された収納家具。両開きの扉の中は成型アルミニウム。ポップでカラフルな作品が多い会場内で、シンプルな美しさは、ひととき注目を集めていた。



emeco (エメコ)

「Super Light」 Frank, O.Gehry

世界的な建築家フランク・O・ゲーリーのデザインによる新作。快適さ、軽さ、耐久性を併せ持ち、背もたれと一体となった座面が動くことで、座る人の体勢にフィット。片手で持てるスマートなデザインも話題に。



MILANO SALONE

INTERNAZIONALE DEL MOBILE

世界で注目のアルミ家具

ミラノサローネ期間中は雨が降るといふジンクスがあります。2004年のサローネ会場は前半天候に恵まれ、温かい春の陽気を感じるなか、スタートしました。今期開催日程は4月14日から19日まで。13日が前夜祭となりました。13日のミラノはほとんどの家具ショールームが準備に向けて休館となっており、その意気込みがとても感じられました。

今年の傾向としては、新作というよりは以前からの作品をリカバーしたものがカラーバリエーションの展開等、冒険的な作品はあまり見受けられず、どちらかと言うと保守的な傾向にあったように感じます。

またカラーが俄然「ビタミンカラー」と言われるグリーン、オレンジ、レッド、またはショッキングピンク等の明るい色調が多く、60年代を彷彿させる「円形」の商品も多く見受けられ、全体的にポップな印象でした。

サローネに出展はせずにミラノ市内を中心に独自のショールームで展示会を行うメーカーが更に増え、多くの人達で賑わっていました。

また、イタリアの代表的なブランドの一つで、サローネの顔でもあったCappellini社の販売権がフラウツに渡る等、センサーショナルな出来事もあり、息の長い企業がどれだけ今後残つてゆくか、少々不安を感じる場面もありました。

そのような中、今期ecomsにあって大変興味深かったのが、Aliasから発表された大御所デザイナー Michele De Lucchiの手にやる「LAYOUT」という商品です。アルミの押しによる曲線の美しい棚。ある時はパーティーションとして充分に機能を満たし、棚そのものの存在も流動感に溢れ、冒険心を感じる作品の一つでした。会場内に幾つもの「LAYOUT」が配置され、ポップなカラー色が目立つなか、シックな美しさが際だっていました。改めてアルミの押し時の美しさ、またアルミを使用した曲線の美しさを十分に堪能できる作品に出遭えた気がします。

次にご紹介するブランドも会場内では小さなブースでしたが、イタリアのErrettiの会社のブランド「amoremio」です。こちらは創造性高いデザインで有名な気鋭デザイナー Denis Santachiaraの手にするもの。ecoms同様、アルミの押し部を前面に出した家具メーカーです。ecomsがシンプル&シャープなのに対し、カジュアルでラウンドを意識したデザインが目立ちましたが、押し部に自社ブランド名「amoremio」を入れてみたり、ラウンドの壁収納やシートから3シートまで連結可能であったりと、まさに私達ecomsが手掛けようとしていたことをそのまま形にしているメーカーでした。

来年はecomsもサローネに出展します。今まで様々な声を多くの方達より頂戴しておりますが、それを具現化し、世界でどのような反響が起きるのか。今から楽しみです。

日本で注目のアルミ家具

「ALFACTO」

「ALFACTO」は新しい生活提案型インテリア家具、生活雑貨ブランドとして平成11年に発足しました。長年アルミ素材を中心とした「ものづくり」で培った確かな技術を基本に、新素材・自然素材などを用いて技術とデザインの「コラボレーション」に着目した商品開発や提案を行っています。

ALFUNI

【アルファニ】

森林資源を保護するための新しい素材として、高いリサイクル率を誇る再生資源「アルミニウム」を使用した製品。押し出し材として最適なアルミ素材A6063を使用、軽量でありながら高い強度を保ちます。様々なシーンで永く使用できるシンプルで飽きのこないベーシックなスタイルが人気を集めています。



C-TABLE

2003年グッドデザイン賞選定商品
コーディネートしやすい2種類の天板を揃えました。



ALFUNI#101G (強化ガラス)
W1350×D750×H700 ¥131,250
W1350×D600×H700 ¥126,000
W1200×D750×H700 ¥126,000
W1200×D600×H700 ¥120,750



ALFUNI#101W (ブラックチェリー)
W1350×D750×H700 ¥148,050
W1350×D600×H700 ¥142,800
W1200×D750×H700 ¥142,800
W1200×D600×H700 ¥137,550

※全て税込価格となっております。



Display Board

【ディスプレイ・ボード】

アルミ表面の美しさを活かした直線的なフォルムを持つディスプレイ・ボード。アルミの押し出し材で作られた扉面が、シンプルで上品な表情を与えています。リビングはもちろん、オフィスやミーティングルームなどで存在感を与えるメインボードとして、また大型サイズ用TVキャビネットとしてのご使用にも最適です。

W1950×D520×H1885 参考価格 ¥ 735,000



CABINET

【キャビネット】

C-TABLEと同シリーズのキャビネットです。アルミと乳白色のガラスの組み合わせは、シンプルでコーディネートしやすく、様々なシーンを演出してくれるでしょう。SOHO空間のアクセントとして、またサブテーブルとしてもお使いいただけます。

W426×D690×H693 参考価格 ¥ 94,500

ALLED

【アルレット】

次世代の明かりとして注目されている高輝度LED光源と、軽量で耐食性に優れたアルミの利点を活かし、環境にも配慮したLED照明器具のシリーズです。高輝度LED光源は、長寿命で光変換効率も良く、低消費電力、低発熱、さらに直流点灯により蛍光灯の様なチラつきも無い視認性の高い光源です。



LIGA-B

【フロアライト】

アルミニウム/マット仕上げ
高輝度白色LED
222個使用
H1560mm～1900mm
5.6kg (含ベース部)
¥ 155,400



LIGA-A

【デスクライト】

アルミニウム/マット仕上げ
高輝度白色LED
144個使用
H420mm 0.6kg
¥ 102,900



ALFACTO
Sustainable Lifestyle shaped by Ecological Design Factory

「ALFACTO」の商品に関するお問い合わせは
株式会社シバサキ
〒368-0068 埼玉県秩父市堀切507番地
TEL 0494-62-2211
http://www.alfacto.com/
ALFACTOはecoms6号にも掲載されています。

アルミの新たな魅力あふれる空間

神宮前ショールームオープン



アルミ押出し材の組合せによる、新しい時代のライフスタイルに合った家具を提案してきたエコムス東京ショールームが、6月12日より渋谷区神宮前にオープンいたしました。新宿ショールームに続く、東京2店舗目となります。

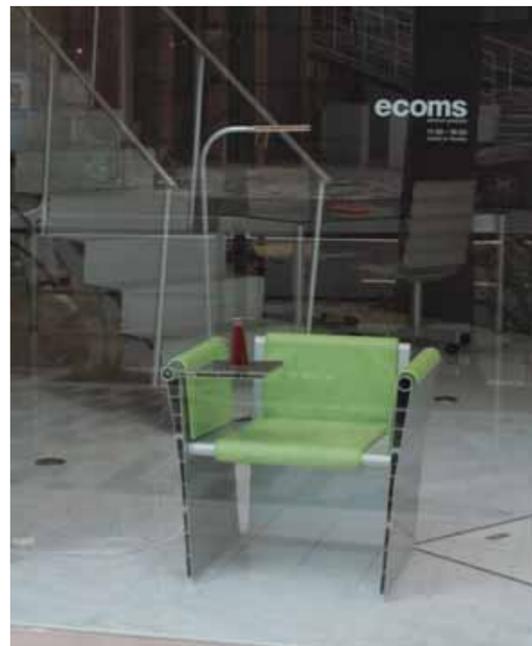
新東京ショールームでは、従来のアルミ家具や、現在大変御好評を頂いておりますGシエルフなどの『Yシリーズ』に加え、新たな商品をリリースいたしました。以前よりご要望の多かったソファをバリエーション豊かなアイテムで取り揃え、新システムとして『階段ユニット』も発表。アルミのさらなる魅力を引き出し、いける家具を提案しています。

新東京ショールームは、外苑西通りに面し、エントランスに大きく吹き抜けを設けたメゾネットタイプのショールームです。1階は主にビジネスシーンを、2階はプライベートな空間でご利用頂けるような家具をイメージし

コーディネートしております。エントランスを入りますと目を引くのが、新作のソファとサイドテーブルを配置したラウンジエリア。続いてSテーブル、チェア、Gシエルフで構成されたスタイリッシュな執務スペースを想定したエリア。さらに奥には、6人掛け用のSテーブルとチェアを配したミーティングエリアと、アルミ家具独特のシャープな雰囲気の中、日常のビジネスシーンを具体的にイメージして頂くための最適なオフィス家具をお選び下さい。

フロア中央のアルミ押出し材のパーツで組み立てられた階段を上がり、すと、プライベートなシーンを想定し、セレクトされた家具のラインアップをご覧ください。吹き抜けに面した明るい一角はリビングエリアとして。新作のソファを1シーターから3シーターまでフルバリエーションで展示し、壁面に大型プラスマテレビ、オーディオスピーカーを配した空間は、ホームシアターとしても最高です。他にも、ご要望の高かった新作のキッチンや、アルミの風合いを活かしながらも機能的で遊び心のある新しい書斎家具の提案など、あなたの感性を刺激する家具を数多く取り揃えました。

エコムスはこの移転を機に、さらに新しく、さらに面白くアルミ家具の魅力を発信してまいります。是非お気軽に新東京ショールームにお立ち寄り下さい。スタッフ一同心よりお待ちしております。

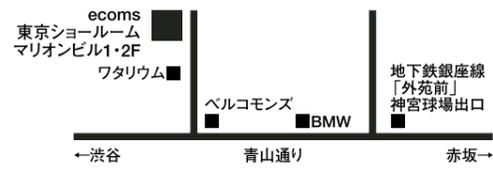


New Product stair シリーズ









Sofa 3 seater 99,750円



Sofa 1 seater 50,400円



ecom New Tokyo Showroom — New Products 6.12 Debut

※レザークッション、オプションライト、オプションテーブルは別売です。



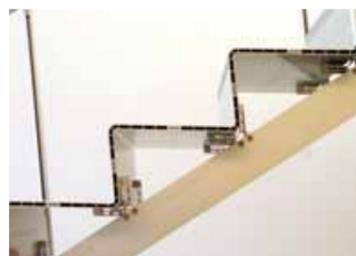
Sofa 2 seater 75,600円



Corner 57,750円



Couch 162,750円(マットレス込み)



Stair
13段+10段 手すり込み 63万円(P.16参照)



Center table 73,500円



Ottoman 42,000円



エコムスファクトリー完成

平成16年6月18日、エコムスファクトリー『九州事業所鳥栖工場棟』は、壁一面を覆うガラスの中から銀色に輝いたすきがけの紋様を描き出し、その姿を現しました。『軽くて強い、しかも環境にやさしいアルミの建材としての可能性を追求した建物を』と進められたこのプロジェクト。今後は、一般普及のために簡便な施工方法の確立やさらなる軽量化、コストダウンなどの解決に取り組んでいきます。

エコムスファクトリー 構造設計の観点から

1.はじめに

SUS九州工場(鳥栖)のエコムスファクトリーは、アルミニウム合金による立体トラス構造を省けば、現時点において国内最大のアルミ建築となります。この構造について簡単に説明いたします。

エコムスファクトリーはエコムスハウスの構造システムを用いています。エコムスハウスは、その名前のとおり住宅です。その構造も住宅規模を対象にした構造システムになっています。構造システムの基本的な考えは既に紹介されていますので、ここでは割愛いたします。エコムスファクトリーは事務所と工場が一体となった建物です。で、大きさも住宅規模を超えています。従いまして、エコムスハウスの構造システムを用いてエコムスファクトリーを作るためには、システムの拡張が必要になります。

2.構造のテーマ

エコムスファクトリーの平面は、12.0m×43.2mであり、事務所として使用する2階建て部分12.0m×10.8mと、工場として使用する平屋部分12.0m×32.4mで構成されています。事務所の2階建て部分は、基本的にショールームと同じ規模となっていますが、工

場部分は、階高が6.0mと高く、スパンも12.0mと大きいのが特徴です。構造設計においてこれらをどのように実現するかがテーマとなります。

① 外壁のたて枠について

外壁のたて枠(ラチスパネルのたて枠)は、風に対して発生する応力度が許容応力度以下であること、また、有害な変形が生じないことが設計条件になります。たて枠の板厚は、構造の要件から既に8mmと決まっています。この寸法は、納まりの関係から変更することができません。そこで、ここでは高さ3.6mの外壁のたて枠寸法を8mm×120mmとしているのに対し、8mm×200mmとして必要な曲げ剛性を確保しました。

② 梁について

梁もたて枠と同様に、応力度と変形を規定内に納めなければなりません。梁の耐力と剛性は、梁の高さとランジの断面積で決まります。ここでは、シヨールームの梁がラチスユニットを用いて梁の高さを300mmとしているのに対し、ラチス4ユニットを用い、梁の高さを1,200mmとし、適切なランジ厚さを定め対処しました。

③ 屋根面の剛性

工場部分の12.0m×32.4mを完全に無柱空間とするためには、32.4mの外壁に作用する風荷重を、屋根を介して両側のラチスパネルに伝達する必要があります。これを実現するためには、シヨールームで用いた屋根システムよりも大きな耐力と剛性が必要となります。ここではそれを避け、シヨールームと同じ屋根システムを用いるために、32.4mをラチスパネルを用いて10.8mの3分割にしました。こうすることにより、屋根面の負担を軽減しています。

3 おわりに

エコムハウスの構造システムは、住宅を対象としていますが、部材を適切に選択することにより、より大きな規模の建築を実現できるシステムであることが実証されたと考えています。



事務所部と工場部を仕切るラチスパネル



工場部分を3分割しているラチスパネル

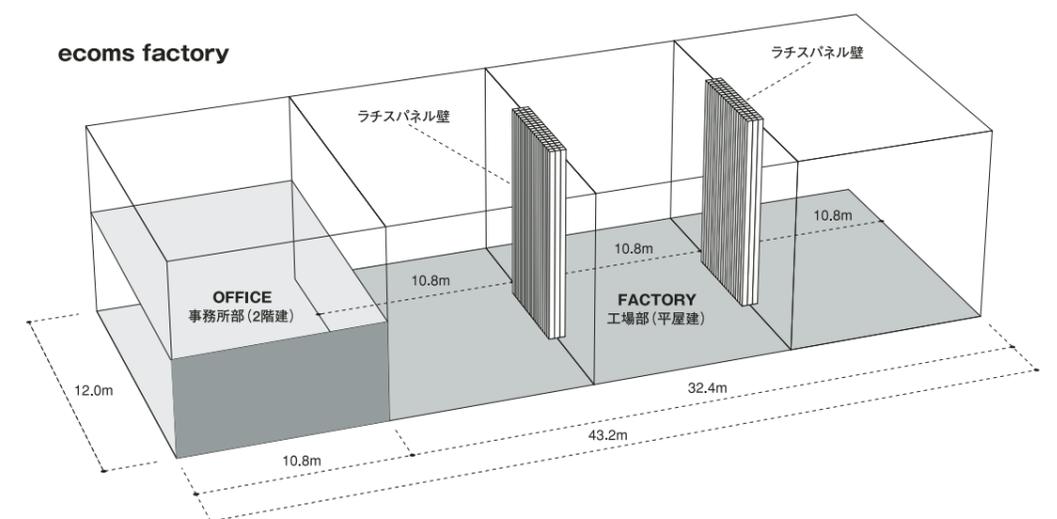


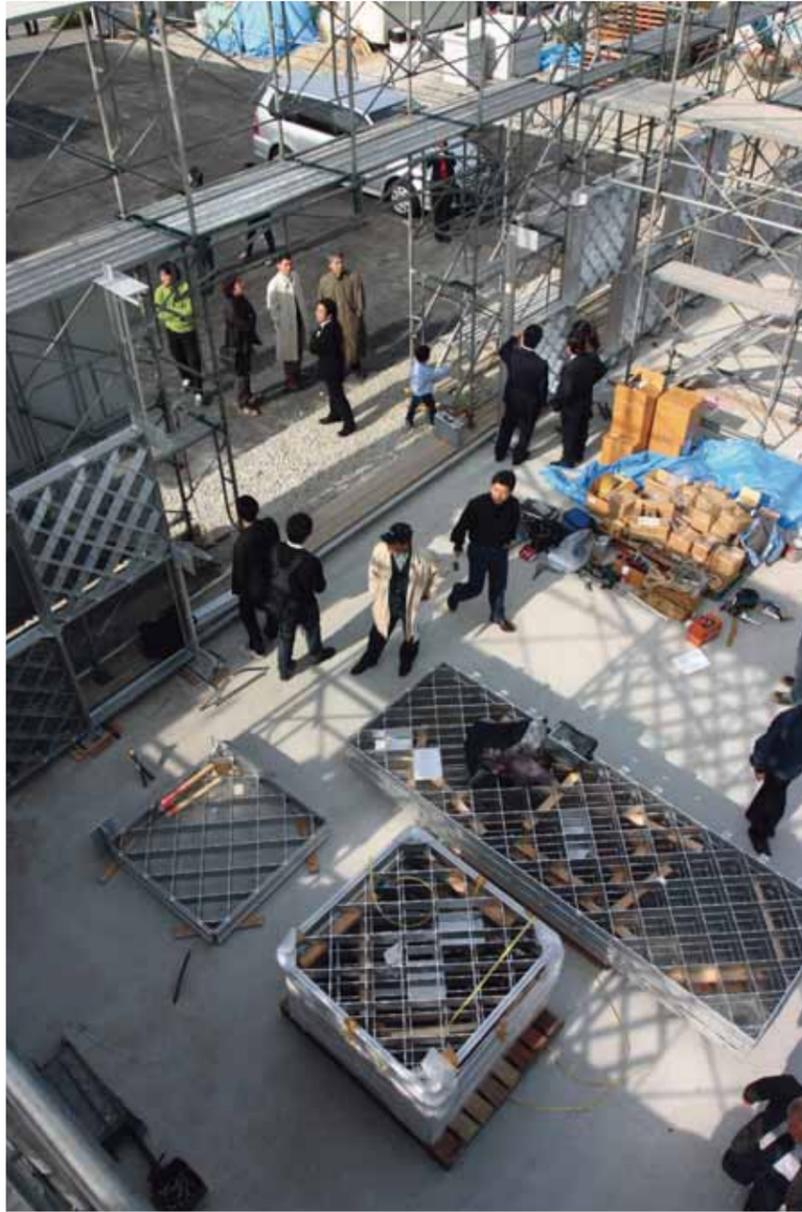
高さ1,200mmの梁



8mm×200mmのたて枠(ラチスパネルより内側に出ている部分)







九州発セミナー&見学会 3月27日(土)サンメッセ鳥栖

『アルミ建築』の可能性と未来を確信した一日

九州では初めての開催となるSU S主催の建築セミナー。数々の大型プロジェクトを手掛け、いまやアルミ建築の先駆者としても活躍中の建築家・山本理顕氏と、構造設計の飯嶋俊比古氏による講演に加え、完成したばかりのエコムスハウス・建設中のファクトリーの見学会も兼ねたセミナーには、九州全域から本場にたくさんの方々が足を運んでくださいました。

山本理顕設計工場とSU Sとの共同開発から生まれたラチスパネルの構造、アルミ建築の可能性と今後、そして建築そのものをユニット化していくという考え方。エコムスハウスの棟上から完成までの様子や山本氏が手掛ける芭楽町庁舎プロジェクトなど、スクリーンに次々と映し出される近未来的な建築スタイルに、参加者の目は釘付け。

アルミ建築の構造設計に長年携わっている飯嶋氏によるラチスパネルの「かん合接合」や強度実験に関する講演では、熱心にメモを取る建築家の方の姿が見受けられました。

構造見学会では、アルミの美しさに感嘆の声があがるほど。多くの方に、アルミ建築の可能性を感じていただいた見学会となりました。



RIKEN YAMAMOTO
山本理顕

1968年日本大学理工学部建築学科卒業。1971年東京芸術大学大学院修了。1973年山本理顕設計工場設立。2002年工学院大学 教授 現在に至る。主な作品：1999年埼玉県立大学。2000年公立はこだて未来大学。2003年CODAN東雲1街区など。主な受賞：1988年昭和62年度日本建築学会作品賞。2001年第57回日本芸術院賞。2002年 2002年日本建築学会賞。アルミ構造建築作品：鳥栖エコムスハウス・エコムスファクトリー・福島オフィス



TOSHIHIKO IIJIMA
飯嶋俊比古

1970年関東学院大学卒業。1975年名古屋大学博士課程修了。1975年飯島建築事務所設立。1981年(株)飯島建築事務所代表取締役 現在に至る

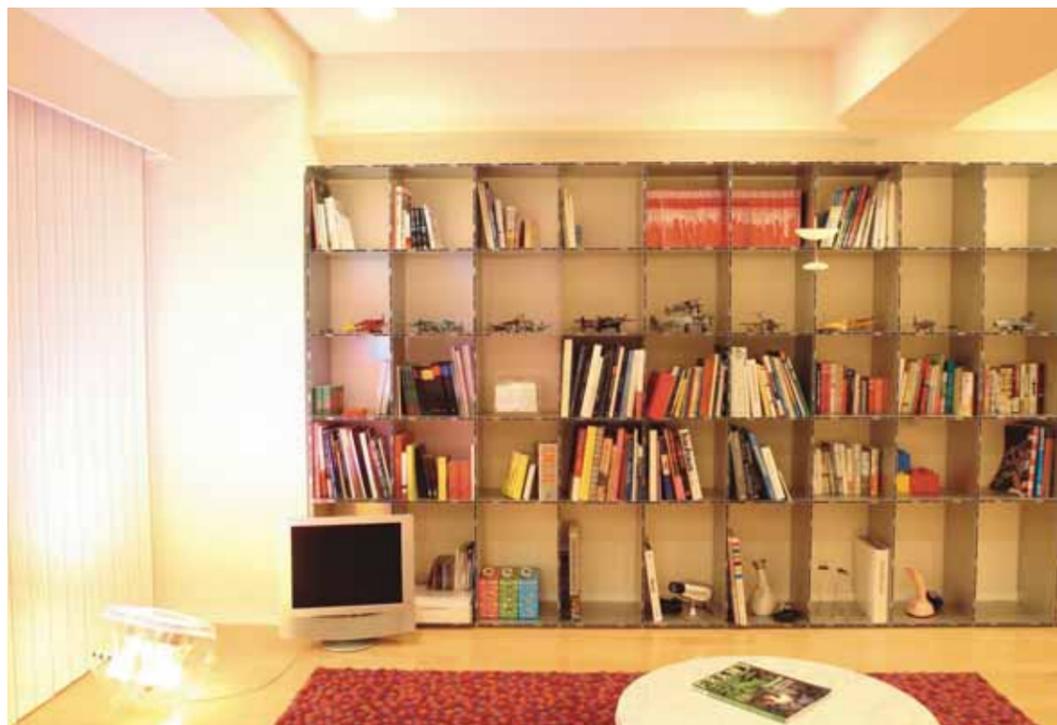
バランス感覚にすぐれた家具

東京都丁様邸 平成16年3月納品

閑静な東京目黒区のとあるマンション。ホテルを思わせるシンプルかつモダンなロビーを抜けると、T様のお住まいに到着。壁一面を飾るグリッドシェルフは、今年3月にご購入いただいたものです。

「市場には様々なユニット家具や組立式収納がありますが、長年組替えて使い続けるには少し頼りない素材の物や、逆に高価で精緻すぎるゆえに分解や組立が自分では難しい家具もあります。その点、グリッドシェルフは素材のクオリティ、組替えが容易な扱いやすさ、そして価格：すべてがバランスよく構成されている。そこに魅力を感じました。」
 わずか10mmという非常に薄い部材で構成されているので、壁面一杯にレイアウトしても、軽さを損なわない点がお気に入りとのこと。

「自由に後付けできるガラスやアルミの扉があると、アレンジの幅がもっと広がりますね」とT様。お客様の声は、製品づくりの重要なポイント。貴重なご意見を元に、より完成度の高いアルミ家具の提案を目指していきます。



「ミリ単位」を追求した家具

東京都 スタイルレックスデザイン(株)様 平成16年4月納品

時代が大人の街に戻りつつある、ここ銀座。セレクトショップが立ち並びお洒落な一角に、スタイルレックスデザイン様の新しいオフィスがエコマスの家具と共にスタートしました。

「友人のデザイン事務所で目惚れして、すぐにどこかで扱っているのかを聞きました」初めて東京ショールームにお越しになられた日に、熱心に商品をご覧になられ、グリッドシェルフ、Sテーブル、バーテーションをご購入頂きました。

「カスタマイズ」、「オーダーメイド」、「ONE TO ONE」、「ソリューション」、「シンプル&クラマラス」それらを謳ってスタートしたデザインプロデューサー会社なので、エコマスの家具は自身のコンセプトにフィットしていました。アルミの素材感、ミリ単位でのオーダーが可能など、他社にはない柔軟性も魅力ですね。今度はAVキャビネットがほしいと思っています。さらにグリッドシェルフも増やしていきたいですね。オフィスの拡大とともに夢も大きく広がります。



タイムリミット4時間半! シャープに映えるアルミ製の待合室

九州旅客鉄道株式会社様 黒崎駅ホーム待合室



「たった二夜で待合室を…」終電から始発までの限られた時間で、ひとつの建物を完成させるといふエコムスにとつて初めての試みに、各方面から大きな期待と関心が集まりました。

JR黒崎駅は特急「ソニック」も停車する鹿児島本線の中でも重要な駅です。利用客も多いため、工事でご不便をかけることのないよう深夜から早朝までの作業となりました。

静岡本社および九州事業所にて、仮組み・解体・テックという工程を2回演習し、本番に取り組みました。

100ミリ角の柱を事前に施工しておいたアンカーに差込み、形にしています。メインの枠組みが完了したところでオートクローズドアを設置、アルミニウムカムボードで作った天井を張り、作業は順調に進みました。ガラスコーキングに若干の手間が掛かりましたが、ほぼ時間内で作業を終了することができました。

JRの方に印象をお尋ねした所、「ガラス面が大きく、開放的」「現地施工を短縮できたため、より安全に作業ができて良かった」とコメントを頂きました。シャープで美しい待合室は後日、内装やエアコン、ライト工事等が施され、3月中旬より一般のお客様にご利用いただいております。

眺められるような家具にしたかった

日本大学理工学部 海洋建築工学科 教授 畔柳昭雄様



大学の研究室は、研究資料が毎年増えるため、市販されている重量棚や無骨な連結収納棚を使用している場合が多々見受けられます。しかし、当研究室は設計やデザイン、意匠を志向する学生が集まる研究室のため、デザイン性に優れ、かつ使い勝手が良く、収納する本や報告書などをインテリアとして眺められるような家具を配置したいと考えました。エコムスのグリッドシェルフは、そういった私達の要望に応じてくれる家具だと思っただけです。

実際に使用してみた感想は、A4版の研究報告書等がすんなりと入り、本を並べた状態が見た目に美しく、これまでにない部屋の雰囲気となりました。設置当初、周囲の研究室から先生方や学生が頻りに訪れて、部屋の雰囲気眺めてため息をついて帰っていったほどです。学生達が組立を行いました、アルミの型押し材を知るとはなかつたかと感じています。



はじめに

前回到続いて梁の話です。前回は、梁理論の基本的な考え方、梁の撓みを求めるための断面二次モーメントI、梁の曲げ応力度を求めるための断面係数Z、数表を用いて最大曲げモーメント及び撓みを求める方法について述べました。今回はその知識を用いて、曲げ剛性の概念について述べます。

曲げ剛性

剛性とは字の通りで、剛さです。曲げ剛性とは、曲がりにくさ(曲がりやすさ)を示すものです。前回述べた通り、単純梁に集中荷重が作用した時の撓みδは、下式となります。

$$\delta = \frac{1}{48} \cdot \frac{P\ell^3}{EI} \quad \text{式(1)}$$

P:荷重
ℓ:スパン(梁の支点間距離)
E:ヤング率
I:断面二次モーメント

式(1)中のEIを曲げ剛性と言います。

荷重とスパンは梁の使用状態を示すもので、荷重が大きくなれば、梁の撓みは大きくなり、スパンが大きくなれば梁は撓みやすくなります。一方、曲げ剛性EIは、梁自体の曲がり難さを表しています。曲げ剛性は、ヤング率Eと断面二次モーメントIの積で定義されますので、ヤング率Eが大きくなれば、EIは大きくなり、また、断面二次モーメントIが大きくなれば、EIは大きくなります。ヤング率は材料によって決まる値で、鋼材、アルミ、木材のヤング率は各々表1に示す値となります。

材料	ヤング率 N/m ²
鋼材	205,000
アルミ	70,000
木材	8,000(バイツガ)

従って、同じ断面の梁が鋼材、アルミ、木材でできている場合を考えると、曲げ剛性EIは、以下の関係になります。ヤング率の添字S、A、Wは、各々、鋼材、アルミ、木材を示します。

$$E_S \cdot I = 205,000I$$

$$E_A \cdot I = 70,000I$$

$$E_W \cdot I = 8,000I$$

従って、それぞれの関係は、次の様になります。

$$E_S \cdot I : E_A \cdot I : E_W \cdot I \approx 3:1:0.1$$

$$1/E_S \cdot I : 1/E_A \cdot I : 1/E_W \cdot I = 0.34:1.0:8.8$$

これは同じ断面で、同じスパン、同じ荷重であればアルミの梁の撓みに比べて、鋼材の撓みは1/3、木材の梁の撓み8.8倍となることを意味しています。断面二次モーメントIは、矩形断面の場合、前回述べた通り、次式で

定義されます。

$$I = \frac{BH^3}{12} \quad \text{式(2)}$$

式(2)から断面二次モーメントIは、梁の幅Bに比例して大きくなり、梁成H(はりせい:梁の高さ)3乗に比例して大きくなるのが判ります。従って、断面二次モーメントを大きくするためには、梁の幅を大きくするよりも、梁成を大きくする方が効率が良いこととなります。次に、H断面の場合について考えます。H断面の断面二次モーメントは、前回の問答で示した通り、H断面を包絡する矩形の断面二次モーメントから、実際には存在しない部分の断面二次モーメントを差し引くことにより求めることができます。H形断面のウェブ部分は、断面二次モーメントにあまり寄与しないと考えると、図-1の様になります。

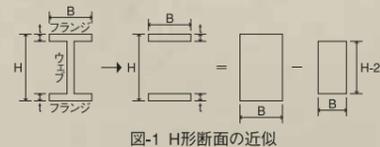


図-1 H形断面の近似

これを数式で表現すると次の様になります。

$$I = \frac{BH^3}{12} - \frac{B}{12}(H-2t)^3 \quad \text{式(3)}$$

式(3)を計算して、まとめると、次の結果が得られます。

$$I = B \cdot t \left(\frac{H}{2} - \frac{t}{2} \right)^2 \times 2 + \frac{Bt^3}{12} \times 2 \quad \text{式(4)}$$

この式は、以下のように理解することができます。式(4)の第1項のB・tは、フランジの面積です。(H/2-t/2)は図-1に示す通り、断面の中心からフランジ中心までの距離です。3番目の2は、断面の中心から見て、フランジが上と下に2つあるので、2倍ということになります。

第2項は、見覚えのある式で、フランジそのものの断面二次モーメントであり、2倍されているのは、上下にフランジがあり合計2つということです。第2項は、第1項に比べて小さな数値となりますので、これを無視すると、式(4)は次の様になります。

$$I = B \cdot t \cdot \left(\frac{H}{2} - \frac{t}{2} \right)^2 \times 2 \quad \text{式(5)}$$

従って、H形断面とフランジの中心間距離の2乗を掛けて2倍したものとします。ここで言いたいことは、矩形の場合には、断面二次モーメントは、梁成の3乗に比例したものがH形断面の場合には、2乗に比例することになるということです。また、H断面の断面二次モーメントを式(5)を用いて、近似的に求めることができます。

荷重の分担

図-2に示す梁1と梁2で構成される交差梁の中央に集中荷重が作用したときに、各々の梁の荷重負担がどのようになるかを考えます。梁の変形を考えると、この問題を解くことができます。ここで、梁1と梁2は、同じ断面とします。

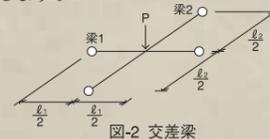


図-2 交差梁

梁1にP1の荷重が作用したときに梁中央の撓みδ1は、以下のように求められます。

$$\delta_1 = \frac{1}{48} \cdot \frac{P_1 \cdot \ell_1^3}{EI} \quad \text{式(6)}$$

同様に、梁2にP2の荷重が作用したときの梁中央の撓みδ2は、以下のようになります。

$$\delta_2 = \frac{1}{48} \cdot \frac{P_2 \cdot \ell_2^3}{EI} \quad \text{式(7)}$$

梁1と梁2は、中央でつながっていますので、撓みδ1とδ2は同じでなければなりません。式で表すと

$$\delta_1 = \delta_2 \quad \text{式(8)}$$

となります。また、梁1と梁2に作用する荷重P1とP2の合計は、Pとならなければなりません。式で表現すれば、

$$P_1 + P_2 = P \quad \text{式(9)}$$

となります。式(8)に式(6)及び式(7)を代入し、式(9)との連立方程式を解くと、以下の結果が得られます。

$$P_1 = \frac{\ell_2^3}{\ell_1^3 + \ell_2^3} \cdot P \quad \text{式(10)}$$

$$P_2 = \frac{\ell_1^3}{\ell_1^3 + \ell_2^3} \cdot P \quad \text{式(11)}$$

式(10)と式(11)から次のことが判ります。荷重は、スパンの3乗に逆比例して負担される。当然、ℓ1とℓ2が同じであれば、梁1と梁2が負担する荷重は同じですが、例えばℓ2がℓ1の1.5倍の長さだとすると、梁1と梁2が負担する荷重の割合は以下のようになります。P1:P2=0.77:0.23

P1、P2は各々、梁1、梁2が負担する荷重です。従って、当然の結論ですが、スパンの短い梁が、ほとんどの荷重を支持することになる、ということになります。

次に、片持柱について考えます。図-3に示す通り、2つの柱が頂部で剛な部材(伸び縮みしない部材)で結ばれています。柱頭に水平力Qが作用しています。



図-3 片持柱

この場合に、柱1と柱2がどのような割合で水平力を負担するかを求めます。柱1及び柱2の撓みδ1及びδ2は、前回述べた片持梁の式を用いて求めることができます。

$$\delta_1 = \frac{1}{3} \cdot \frac{Q_1 \cdot \ell_1^2}{EI_1} \quad \text{式(12)}$$

$$\delta_2 = \frac{1}{3} \cdot \frac{Q_2 \cdot \ell_2^2}{EI_2} \quad \text{式(13)}$$

ここでQ1及びQ2は、柱1及び柱2が負担する水平力です。柱1及び柱2の断面二次モーメントI1及びI2は、以下の通りです。

$$I_1 = \frac{1}{12} BH^3 \quad \text{式(14)}$$

$$I_2 = \frac{1}{12} B(2H)^3 \quad \text{式(15)}$$

$$= \frac{1}{12} \cdot 8 \cdot BH^3$$

$$= 8 \cdot I^2$$

柱1と柱2は、頂部で結ばれているので、δ1とδ2は同じでなければなりません。これを式で表すと以下のようになります。

$$\delta_1 = \delta_2 \quad \text{式(16)}$$

また、柱1と柱2が負担している水平力Q1とQ2は、外力Qと等しくなければなりませんので、

$$Q_1 + Q_2 = Q \quad \text{式(17)}$$

となります。式(12)、(13)、(16)、(17)を用いて、Q1及びQ2を求めると次の様になります。

$$Q_1 = \frac{I_1}{I_1 + I_2} \cdot Q \quad \text{式(18)}$$

$$Q_2 = \frac{I_2}{I_1 + I_2} \cdot Q \quad \text{式(19)}$$

式(18)、(19)に式(15)を代入すると、Q1及びQ2は以下の様になります。

$$Q_1 = \frac{1}{9} \cdot Q \quad \text{式(20)}$$

$$Q_2 = \frac{8}{9} \cdot Q \quad \text{式(21)}$$

式(18)、(19)から、水平力の負担は、断面二次モーメントに比例することが判ります。標準となる柱1と2倍の成を持つ柱2の組み合わせでは、式(15)に示される通り、断面二次モーメントが1対8の関係にありますので、式(20)及び式(21)が示す通り柱頭に作用する水平力のほとんどを柱2が負担することになります。

一方、柱の抵抗モーメントは、以下の様になります。

$$M_R = f_b \times Z$$

MR: 抵抗モーメント

f_b: 許容曲げモーメント

Z: 断面係数

柱1及び柱2の断面係数Z1及びZ2は次式で求められます。

$$Z_1 = \frac{BH^2}{6}$$

$$Z_2 = \frac{B(2H)^2}{6}$$

$$= 4 \cdot \frac{BH^2}{6}$$

柱の成を2倍にすると、断面二次モーメントは8倍になりますが、断面係数は4倍にしかありません。すなわち、曲げ剛性は8倍になるけれど抵抗モーメントは4倍にしかならないということです。同じ断面の柱を何本か並べて、それらに水平力を負担させる場合には、水平力を柱の本数で割って、柱の負担水平力を定め、その水平力に柱が耐えられればOKとなります。しかし、曲げ剛性の異なる柱が並んでいる場合には、それらの曲げ剛性に比例する負担水平力を求め、その水平力に対して、柱が耐えられるのかどうかを検討することになります。他の柱に対して、曲げ剛性の大きい柱は、他の柱より大きな水平力を負担することになります。曲げ剛性と抵抗モーメントが比例関係にあれば、曲げ剛性の大きな柱には、大きな抵抗曲げモーメントを持っていることとなりますので、設計上矛盾を生ずることはありません。しかしながら、前述した通り、曲げ剛性と抵抗モーメントは、比例関係にありませんので、曲げ剛性が大きくなって、負担水平力が増えても(モーメントが大きくなる)、その割には抵抗モーメントが大きくなり、設計において、具合の悪いことになることがあります。構造計画の観点から言えば、構造はなるべく均等にした方がよいということになります。

おわりに

今回は、曲げ剛性について説明をしました。日常これは、「丈夫だ」とか「剛い」とかいう表現をしますが、明確に意味が定義されてこれらの言葉が使われてはいないようです。構造では、「強度」と「剛性」という言葉は、きちんと定義されています。「剛い」か「柔らかい」とかということ、強度が高いか低いかは関係ありません。柔らかくても強度の高い材料は存在しますし、剛くてもすぐに壊れてしまうものもあります。構造設計においては、剛性の高いものはそれに相応する強度を与えることが、安全な設計につながるようになります。構造物を見たときに、変形についても考えれば、見え方が違って来る筈です。

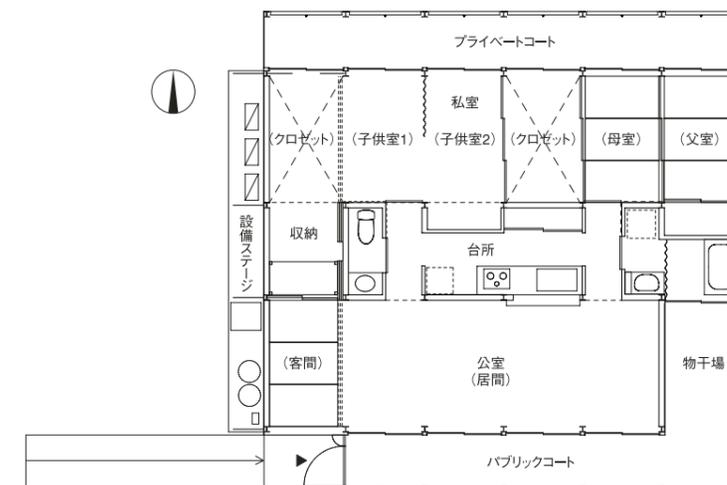


ゼロベースから構築された家 「岸和田の住宅」

理想と現実をすりあわせた時に生じるさまざまな不都合。既成の概念を捨て、一度ゼロに戻って考え直すことで、今まで見えなかった新たな可能性に気づくことも多いはずだ。今回は、そんな着眼を得意とする建築家の合理的な発想から生まれた住宅を取材した。



西側外観 右側スロープがアプローチ 敷地手前は将来分割が予定されている。都市インフラが一番近く、メンテナンスの効率がよい道路側に設備機器がまとめられた。



「岸和田の住宅」DATA

地上1階	
軒高	3,900mm 最高の高さ4,110mm
敷地面積	335.49㎡
建築面積	116.64㎡ (建蔽率34.76% 許容60%)
延床面積	114.21㎡ (容積率34.40% 許容200%)
1階	114.21㎡



南側のパブリックコート 床から天井まである全面2重ガラスで遮音、アルミルーバーで外部からの視線を遮る。



中央コア部分 天井裏および床下ピットに設備配管が集約されている。



北側のプライベートコート アルミルーバー越しに隣家の緑が眺められる。



阿久津友嗣 (あくつともつぐ)
 1958年栃木県生まれ。1981年法政大学工学部建築学科卒業。1984～85年ヨーロッパ・アフリカへ建築視察。1985～87年REA建築工房勤務。1987年あくつ設計所設立。1992年阿久津友嗣事務所に改称。2003年大阪建築コンクール特別賞受賞、現在大阪市立大学非常勤講師
 ●四條畷の住宅 ●つなね2-01 ●豊川の住宅 ●桜井の住宅 ●北神戸の住宅 ●箕面の住宅 ●赤穂の住宅 ●高槻の住宅

素材そのものの美しさを高く評価し、工期の短縮化、部材の規格化を推奨する「ecoms」が取り組んでいる建築の理念に近いコンセプトを打ち出している阿久津氏に、アルミ建築について尋ねてみた。

「元々、木造建築が好きだったんです。構造と仕上げに統一感があるところが気に入っていたのですが、こ

アルミ建築と合理性について

上がった形そのものが放つ説得力ある美しさに惹かれます」

建物自体を基礎の段階で高床式のように底上げし、土地の勾配に対応した。部材の規格化を図り、全てを既製品でまかなった。もともと効率のよい位置に設備配管を集約させ、床下に配管を通す。通常なら隠すべきとされる設備機器を建物の正面、道路側に陳列させた。都市インフラに一番近い場所に配置することは、メンテナンス面でも効率がよく、また工費の節約という点からも有利であると考えたからだと言う。

- ① 予算は限りなくローコスト
- ② 100坪ある敷地の道路側を将来的には分割したい
- ③ 分割地に建物が建つ可能性大
- ④ 土地勾配があり、道路側が高い

上がった形そのものが放つ説得力ある美しさに惹かれます」

建物自体を基礎の段階で高床式のように底上げし、土地の勾配に対応した。部材の規格化を図り、全てを既製品でまかなった。もともと効率のよい位置に設備配管を集約させ、床下に配管を通す。通常なら隠すべきとされる設備機器を建物の正面、道路側に陳列させた。都市インフラに一番近い場所に配置することは、メンテナンス面でも効率がよく、また工費の節約という点からも有利であると考えたからだと言う。

「だんじり」で有名な大阪府岸和田市。繊維産業で栄えたなごりを残す工場跡地に、平屋建て鉄骨造のF邸が建築されたのは3年前。目の前は交通量の激しい交差点。行き交う車を運転する人々の目に、シルバーに光り輝くこの建物が一人の邸宅であることなど、およそ見当もつかないのではないだろうか。

F邸の設計を担当された阿久津友嗣氏は、非常に合理的な建築スタイルで、施主とのスタンスを絶妙に保っている建築家といえる。

「施主が建築家に求めているのは、提案だと思っんです。諸々の条件や考え方、要求を聞き入れて形にする。もちろんそのままを聞くのではなく、二度自分の中でほぐしてゼロから組み立てて創っていく。きちんとした生活観を持っていて「このお金を有効に無駄なく合理的に使って、私たちの新しい生活スタイルを作り上げてほしい」というてくれるお施主さんこそが、お金の使い道が上手い人なんだと思います」

F邸の建築には、以下のような条件が挙げられていた。

施主の条件を徹底追求した建築家の合理的な提案

- ⑤ 居住者は夫婦と娘2人、それぞれに個室を希望
 - ⑥ 工期は出来るだけ短く
- これだけの条件を満たすために、提案した形が鉄骨造の平屋建てという建築スタイルだったという。
- 「施主家は元々この敷地に建てていた鉄骨造の資材倉庫を改造して、その3階に住んでいました。当初は鉄骨を残して全面改装するリノベーション案も考えましたが、解体費用に構造補強費を加えていくと、建築予算の半分近くを使ってしまうことになる。そこで、いかに限られた予算を条件に合わせて組みなおすか、というところで再構築した案がこの形だったのです」

「素」の状態から導き出される本当の美しさと究極の利便性

単に素材の質を落とすのではなく、計画当初から思い切った予算削減を目指して構法を探した。鉄骨造は工場場で加工でき、大工の手間賃がかからず工期も短い。三方に隣家が迫っている立地の中で、視線を妨げながら風と光を取り入れるために、アルミのルーバーを取り入れた。それも工場や駐車場を使う一番安くしてシンプルなものを使用している。

「コストパフォーマンスも魅力的ですが、工業製品はデザイン処理をされていない点がいいですね。例えばアルミも強度を出すためであつて、デザインされたものではない。必然的に出来

こ数年は合理的に仕上げられる鉄骨にシフトした建築が多かった。前号に掲載されていた難波和彦氏が手掛けたN邸などを見ると、アルミの構造は木造に近い部分があると感じましたね。温かみのある少しくすんだ色合い、押し出し成型の断面：昔の日本の民家を彷彿させるような趣きに魅力を感じます」

アルミ建築を考える上で、やはり問題視するのは、普及の度合とコスト面であるという。

「F邸を建てた当時[※]にアルミを構造材として使っていたとしても、試算して鉄骨より高かったら使わなかったでしょうね。やはりコスト面は重要な課題だと思いますよ。一般の人にはアルミを構造に使うという概念がほとんど普及していないから、鉄や木より、こういう部分でアルミが優れている」というのを明確に施主側に伝えていくことが必要でしょうね。軽さと工期の短縮化というのは、これからの建築にとって大きなメリットになると思います」

「個人の住宅としては独創的な形状となったF邸とアルミ建築の今後について、阿久津氏は最後にこう締めくくってくれた。

「F邸は意図して作り上げたものではなく、さまざまな条件を合理的に紐解き、構築していく中から結果として生まれた形です。こうした条件を満たせる建材のひとつとして、アルミがもっと普及してくる日を心待ちにしています」

※アルミが建築構造材として一般認定を取得したのは2002年5月です。



A free consultation meeting by the architect

建築家があなたの悩みにお答えします

ecom fit 主催

建築家による無料相談会

5月8日・9日・15日・16日開催

「人生最大の買い物」ともいわれるマイホーム。

普段、接触を持つ機会の少ない建築家との交流の場を

提供する形となった今回の相談会。

家づくりに関心のあるお客様に、ショールームで建築家と個別に

質問や相談をしていただきました。相談会終了後、各先生方に

「建築家との上手な付き合い方」についてお話を伺いました。

アルミで創る。

ecom fit 第1回デザイン・コンペティション 2004

ecom fitは、アルミの建築や家具を通じて地球環境の保全に貢献しつつ、豊かな生活空間の創造に取り組んでいます。

課題「ワークスペースシステム」

ワークスペースの快適性を高め、仕事を楽しくするためには、家具の役割がますます大きくなっています。特にSOHOのような限られた空間では、日々進化するITネットワーク環境への迅速な対応が計りやすく、資料などの効率的な整理や収納法を考えることも重要です。その一方で、作業に集中できるスペース、適度なコミュニケーションの取れるスペースなども求められています。ワークスペースは時に思いに耽る空間、軽く眠る空間、軽食をとる空間として使われることもあります。ワークスタイルが変化する時代の中で、こうした様々な要求に対応できるワークスペースシステムとはどのようなものか？そしてアルミがどのような役割を果たせるのか、それを提案してください。アルミの素材特性を活かし、モジュール化、システム化を計ることで、多彩なバリエーションを構成でき、フレキシブルにワークシーンを創造することができる独創的なワークスペースシステムの提案を期待します。

●賞金:

最優秀賞1点 / 100万円(税込)

優秀賞2点 / 各50万円(税込)

入選若干名 / 各10万円(税込)

最優秀作品につきましては、受賞者との協議の上実物を製作。

●入選発表:

審査の結果は入賞者に通知するとともに、「新建築」誌にて発表。

また、弊社「ecom fit」及びホームページに掲載。

東京ショールームにて作品図面の展示発表会を開催。

●審査委員長:

山本理顕(山本理顕設計工場代表)

●審査委員:

飯嶋俊比古(飯島建築事務所代表)

畔柳昭雄(日本大学教授)

長岡真夫(長岡デザイン事務所代表)

原田鎮郎(環境システム研究所代表)

山中俊治(リーディング・エッジ・デザイン代表)

●応募資格

応募作品は1つの登録に対して1作品とし、設計した個人またはグループに限ります。

●応募方法

応募者は弊社ホームページから応募登録を行ってください。

応募要項についてはホームページに掲載致します。

●登録申込み期間: 2004年7月1日から8月31日

●応募作品締切日: 2004年8月31日(郵送の場合は当日消印有効)

●申込み・問合せ

「ecom fit デザイン・コンペティション2004」事務局

Phone 03-5413-7722

●主催 SUS株式会社 ecom fit事業部

<http://www.ecomfit.com>



家族の問題も一緒に考える。それが建築家の仕事だと思っています。

建築家に相談してみたいけど敷居が高くて…と感じていらっしゃる方が多いようです。確かに家を建てるというのは、決して安い買い物ではありません。ですから私たちは、良いものをできるだけ安くご提供させて頂きたいと考えています。建築家に頼むと高くなる…という考え方は、誤解だと思っていますよ。

相談にお見えになる際には、基本的な部分だけしっかり持つてきてほしいですね。「どういう家を建てたいのか」「ここが一番大事なところですか」建築もそうですが、基礎がきちんとできていないと、その後が組みあがってこないんですよ。

家を建てるにあたっては、そのご家族が抱える様々な問題に直面することだと思います。予算や家族構成…少々言いにくいことも本音で話してほしいですね。こうした問題も、家づくりに反映させていくのが建築家の仕事です。もちろん、建てた後のメンテナンスまでお付き合いをさせて頂きます。

本当に長い関わり合いになるので、相性も大事だと思いますよ。ですから、もっと気軽に私たちと話してほしいですね。そこからご自身の意向に合った建築家を選んでいただければと思います。



「風邪を引いて医者にかかる」「そんな気持ちで、生活の不都合という『病』について話してほしいですね」

「建築家に相談する」ということを特別に考えなくていいと思うんですよ。初回は、例えて言えば病院に行った時の患者さんのような気持ちで「ここが不便だ」「ここを何とかしたい」と、生活スタイルという「病」について悩んでいる症状を話してほしいと思います。

確かに家は大きな買い物です。だから僕は、一緒にじっくりいきたいと思うんです。建築家に頼んでつくる家というのは、その人の仕様に合わせた究極のオーダーメイドなんです。予算、価値観、ライフスタイル、家族構成…個々に抱えた諸事情を、家づくりを通して解決していくのが建築家の仕事だと思っています。

僕の場合は、何もない状態で相談に来てもらうほうがいいですね。最初は、すごく抽象的でもいいんですよ。「こんな感じで建てみたい」とか、そういう意思を聞き出していく中から、プランを考えていきます。

家をつくるというのは、物を買う行為とはまったく別物だと考えてほしいんです。「形の無い物を買おうとしている」という意識を持った上で真剣に、でも気軽に相談に来ていただければと思います。

5.16 SUN
清 峰芳氏



MINEYOSHI
SEI

最近の傾向で多いのは、やはり二世帯住宅と狭小住宅ですね。どちらも今のご時世をよく反映している住宅事情だと思いますよ。

「お金ができたから家を建てる」これは手固い考えですが、そうすると自分自身が住む期間というのが短くなってしまう。それより、お金は借りても将来を見据え、自分の思い描いた家に長く住むという考えも良いのではないのでしょうか。家賃を払うことを考えたら、家を買ってしまおうものなんですよ。

建築家に相談される時には、ある程度聞きたいことを絞って箇条書きにして行かれるといいでしょうね。予算、場所、スケジュール、家族構成、部屋数：家族それぞれの希望も書き出してみると、意見が整理されて話が進めやすくなると思います。

私たち建築家は、できたものを売るのが仕事ではありません。モデルハウスを見せながらのお話ではなく、お客様の要望に二つお答えして形を作り上げていく。そうやって家はつくられていくんだということを、ぜひともご理解頂きたいと思っています。

**理想を現実
に。将来を見据えて、若い世代
から心地良い家づくりを。**

5.15 SAT
島村芳三氏



YOSHIZO
SHIMAMURA

「人生最大の買い物に何を求めるのか」そういう意識が、次なる展開を生むと思います。

家を建てる際、「どうしたいか」これが一番のポイントですね。何に重点を置くかによって、どこに相談に行くのかも違ってきます。具体的にはコストを抑えたいのか、デザインを重視したいのか、機能を満足させたいのか、などですね。ハウスメーカーに依頼する場合、窓口が広いから話しやすいとは思いますが。しかし、カラーやテイストはメーカーで決まっていますので、建主がそこに合わせていくという流れになるでしょう。また極端に変形した土地などでは、対応を拒まれることもあると思います。

逆に建築家の場合は接点が少ないので、最初は相談しにくいかもしれませんが。しかし、建築家は建主の考え方を整理したり新たな提案をしたりして、一緒になってまとめ上げていくところが一番違うでしょうね。勿論、我々は土地取得の段階からのアドバースも可能です。こだわりや理想、希望がより強い方は、ハウスメーカーでは物足りないのではないのでしょうか。

家は人生最大の買い物です。建築家に任せる場合は、家族全員に共通の意識が通っていることが大事だと思いますね。建築家への依頼は、お見合いに似ています。よく話してみても、相性とか様々な条件のバランスで決めていくのが良いのではないのでしょうか。

アルミのイメージが二変。 漆とコラボレートした異色の工芸作品

アルミに日本の伝統的な漆を融合させた独創性あふれる作品の数々。今、注目の若手工芸作家の挑戦を取材した。

既成概念にとらわれない、 若き作家の柔軟な発想

金属でありながら、やさしく、どこか懐かしい。カラーアルミイトでは決して出ることのできない、温かくやわらかな色調。漆とアルミという意外な組み合わせがコラボレートすることで、今までにない色彩と質感を持った作品が誕生しました。それが、今回ご紹介する小山泰之さんがつくり出すアルミ工芸の世界です。

小山さんは現在、24歳。東北芸術工科大学を卒業後、スウェーデン国立芸術デザイン工芸大学に留学。海外でも高い評価を受けたアルミと漆の作品を、自身の作風としてさらに極めていきたいと日本に戻り、現在は地元・宮城県で創作活動に取り組みんでいます。

「昔から『つくる』という行為そのものが好きでしたね。芸術のように

自分の感情を作品で表現しようという気はまったくありませんよ。『もの』

をつくりたかった。金属を選んだ理由ですか？普通の人には簡単に加工できないでしょ、金属って。特殊な技術と専門知識がいるじゃないですか。そういうものを自分の思い通りに加工してみたいって思ったんです。町工場で火花を散らして金属を溶接している姿って、男っぽくてかっこいいじゃないですか(笑)」

ハードなイメージの金属加工の現場からは、想像できないほど繊細な仕上がり。「これがアルミ？」と思わず触れて確かめたくなるほど、質感も色も私たちが知っているアルミとは違っていました。

アルミの性質を研究し尽くしたからこそ生まれた独自の技法

在学中、初めて出展したデザインコンペで銅を使った器が大賞に。しかし

銅などの金属食器は変色するため、陶器に比べて敬遠されがちであるという事実が直感。カリキュラムで学んだ漆を表面に塗って変色を防ぐ方法に取り組み始めました。

「最初は銅に漆を塗って試していたのですが、思ったように色が出ない。銀にも試してみたのですが、素材自体が高いので思い切った加工ができませんでした。そこでアルミでも試してみたら漆が染み込んだ。正直いつて驚きました。金属で染色できるのは、アルミだけなんです。アルミイトによって得られる皮膜の性質、吸水性を応用してみたいです」

独自の技法を見つけ出したことで自分の作風が決まったと感じた小山さんは、アルミを染色して漆で仕上げた作品を次々に発表していききました。「アルミと漆がこんなにも相性がいいなんて思ってもいませんでした。染色したアルミに漆を染み込ませるためには、アルミイト処理を自分でしなければならいんです。アルミイトした後、すぐに染色しないと漆が染み込まなくなると。とにかく工程が複雑で面倒なんです。その分、研究の甲斐があるんですけどね。アルミには、まだまだ可能性があると思っています」

海外での高い評価と新たな挑戦

恩師の知人でロンドンにギャラリーを持つオーナーに、卒業制作を高く評価された小山さん。スウェーデン留学中にそのギャラリーを訪ねたことで、

海外へ進出するきっかけをつかみました。

「確かに海外のほうが、作品に対する関心度は高い気がしますね。アルミと漆の組み合わせは、置かれる空間によって見え方が変わるんですよ。和風モダンにも見えるし、今風でポップな感じにもなる。そういう面白さがヨーロッパあたりで受けているのかもしれません」

地道な研究を重ねて、独自の作風を確立した小山さん。更なる飛躍に向けて、現在新しい染色方法の確立に取り組みしています。「他の金属ではダメでもアルミならできる…そういうものを求めて、試行錯誤しながら実験を繰り返しています。アルミを通じて金属食器の新しい形を提唱していきたいですね」



「わんつー」
陶磁器作家 酒井崇全氏と結成したユニット「SOプラザーズ」による作品。磁土の輪の上にアルミの器を置く。器の角度を変えられるのが特徴。各21,000円(税込)



「アルミのコップ」 各15,750円(税込)

ヘリト・トーマス・リートフェルト「赤と青の椅子」(1918年) 独創的な美しさの追求 内藤博義

自身の理念を表現した名作

季節は移り変わり、今は夏のまぶしい太陽を心待ちにする長雨の日々。この「椅子の名品たち」を始めてから、早くも三回目となりました。

今まで何気なく見ていた名品といわれる椅子も、それを創り出したデザイナーの理念に触れると、今さらながら彼らの思いに感心させられます。改めて辞書を引くまでもないのですが、理念とは「ものがどうあるべきか、という根本的な考え方」との説明があります。椅子に限らず、ものをデザインする側としては、自分を律する基本的な姿勢として、常に立ち返らなければならないところだと思います。

今回はその理念を見事に表現した代表的な椅子であるヘリト・トーマス・リートフェルトの「赤と青の椅子」(1918年)を取り上げます。インターネット上で「リートフェルト」を検索すると、「基本に忠実で、それでいて斬新」「デ・ステイル」「二度目にしたら強烈

な印象で脳裏に焼きつく」「意外な座りやすさ」などなど、驚くほどたくさんの方が表示されます。この椅子はリートフェルトが知人のために、また自分自身の理念を表すために制作したものであり、その後、大きな社会的影響力を持つものになるとは思っていなかったようです。リートフェルト自身「造形的秩序は、計算され尽くした寸法とかプロポーションなどとは関係なく、作家自身の優れた目だ」と言っているように、常識的な造形への理解を求めるのではなく、あくまでも独創的な美しさを追求することに力点をおいていたのでしょう。「これが独創である」とは、デザインに携わる身として容易に言えることではありませんが、彼の言葉には揺るぎない自信が感じられます。

最初は単なる「木の椅子」だった

この椅子を見つると、その面と線の抽象的な構成が、画家のピート・モンドリアンの絵画を連想させます。モンドリアンは風景を、リートフェルトは

伝統的なアームチェアを、という対象の違いはあるものの、幾何学的な面と線の構成で自らの造形理念を表した点で共通しています。

モンドリアンもリートフェルトも当時の同じ集まりの中で活躍しましたが、そこでリートフェルトは、まだ塗装されていない「赤と青の椅子」を発表しました。この椅子は、グループの理念の表明に役立つ最初の作品だと言われています。家具デザイナーでもあったリートフェルトは、建築家としても近代合理主義を代表する一人であり、素材的な面でも、金属パイプ、パネイクルボード、アルミ板、積層板といった、当時としては新しい素材の使用を試みました。組み立て式家具や、

量産性を持ち合わせた家具デザインの可能性も試みたようです。

この椅子は、当初は塗装のないモデルとして製作されたものですが、最終的には色彩豊かなものになっています。さまざまな色での試行錯誤を繰り返した上での結論だったに違いありません。この色彩構成そのものが、「赤と青の椅子」を単なる木の椅子としてではなく、彼の造形理念を二層強調したものになっていると思います。前回の「ジグ・ザグ」と今回の「赤と青の椅子」、共にリートフェルトの作品を取り上げましたが、今回は優美な世界を創り出したマッキントッシュの作品をテーマにしてみました。



内藤博義

[有限会社内藤工業デザイン研究所代表取締役]

1969年武蔵野美術大学造形学部産業デザイン科工芸工業デザイン卒・1972年有限会社内藤工業デザイン研究所設立・1982年浜松職業能力短期大学校非常勤講師(～1995年)・1987年日本インダストリアルデザイナー協会入会(JIDA)・1989年～2000年まで連続してグッドデザイン(Gマーク)を受賞・1994年国際工学院専門学校非常勤講師(～1996年)・1977年静岡県技術アドバイザー(～現在)・2002年2003年グッドデザイン賞受賞



「赤と青の椅子」

写真は手づくりの1/5縮小モデルです。製作したミニチュアモデルの中で、この「赤と青の椅子」が最初に作ったモデルです。写真から寸法をとって図面化しましたので、寸法比率はやや不正確かもしれませんが、直角に組むことと、塗装仕上げに苦心しました。



大雨洪水警報が発令されたセミナー当日。横殴りの雨にも関わらず、若いミセスを中心に24名の方々が集まりました。外は春の風、会場のエコムスフィットショールームは可憐な花園といった印象。そのギャップが、とても不思議な感じでした。

Welcome Flowers!! 花と暮らす いつものシーンにさりげなく花を

ポリウム感の演出はお金を
掛けない。

「一年に1回5000円の花束を買っていたくよりも、5000円の花を10回、その方が嬉しいなあ」と兼田さん。でもそれじゃあ、ポリウム感がなくて寂しそう。いいえ、大丈夫なんです。用意されたのはブルーの小瓶3個、3本の花、庭で摘んだクローバー。背景に本や小物を置き、手早く生ける。色の分量を考えながら、ディテールに統一感を持たせると…。ほんとは、全然貧弱じゃありません。いいものを見つ

2004年4月27日(火) 13:30~15:30
ecom fit 静岡ショールームにて



AYAKO KATSUMATA

勝又綾子 [中国茶専門店・喫茶「萬千吉茶坊」マネージャー・中華人民共和国認定 高級茶師]

子どもの頃より中国の文化に興味を持ち、大学では中国文学を専攻、中国語教員免許も取得。旅先で出会った香り高い中国茶に魅了され、その後、中国滞在経験を通して造詣を深める。帰国後、中国茶専門店「萬千吉茶坊」マネージャーとなり、同店の扱う80種を超える中国茶の選定及びコーディネートをすべて手がける。中華人民共和国認定高級茶師の資格を持ち、中国茶教室の主宰、茶関連イベントへの参加等、その活動は幅広い。



中式下午茶

チャイニーズアフタヌーンティーを楽しむ

2004年3月23日(火)・27日(土) 13:30~15:00
ecom fit 静岡ショールームにて

6つの色をもつ中国茶の世界

お茶ブーム、と言えるのではないのでしょうか。ここ数年お茶飲料水の種類はますます増え、巷ではお茶専門のカフェが話題に。健康や美容面はもちろん、もっと奥深い魅力を、ゆっくりお茶でも飲みながら探ってみましょうか。「中国茶は発酵の度合いによつて6つの色で分類されます」「緑」は発酵していない中国緑茶。次に発酵の浅い順から「白」「黄」「青」「紅」

「黒」まで。白茶は芽吹いたばかりのうぶ毛の生えているところを摘んだもの、黄茶とともに稀少なお茶です。青茶はウーロン茶。紅茶は紅茶で、その、ルーツは中国なのです。黒茶は脂肪吸収抑制効果が高いと言われるプーアル茶です。

スローなくつろぎ、という贅沢

永い歴史と広大な風土が育んだ中国茶の種類や知識は、語り尽くすにはかなり膨大。それより、まず味わわ



てみましょうと、勝又さんが用意してくださったのが3つのお茶。「茉莉繡球(まりしゅうきゅう)」「は、ワイングラスに入れられた球状のお茶にお湯を注ぐと、それがゆつくり開いて、まるで花が咲いたよう。茉莉花(ジャスミン)の香りをつけた細工の施されたお茶にバラ科のハマナスの蕾を添えたものでした。次は「阿里山烏龍(アリサンウーロン)」という高級茶。愛らしい、でも本格的なお茶道具でいただきます。茶盤の上には急須とピッチャー、背の高い間香杯と低い茶杯が乗っ

素敵な器たちと
スウィーツと点心

ます。まず急須にお湯を注ぎ、そのお湯をピッチャー、2つの杯と順々に移し、茶器全部を温めます。次に急須に茶葉とお湯を入れ蓋をしたら、急須の上から熱いお湯を注ぎます。そして待つこと約1分。急須のお茶を間香杯に注ぎ、それを茶杯に移し替えた後、最初に間香杯の残り香を楽しむのです。それから茶杯のお茶を、「いい香り」「味が全然違う」「そんな暗さがあちこちから。そして丁寧な作法でお茶がいただけるのを待つ時間、スローなくつろぎがなんと贅沢。最後の「特級祁門紅茶(とつきゅうキーマンこうちゃん)」は「蓋碗(がいわん)」という蓋付きの茶碗でいただきました。

茶器はもちろん、チャイナ柄のティーマット、ドライフルーツやナッツを入れた提籃(ていりん)※竹製のバスケット)など、ディテールセッティングも、洗練されていて素敵だった今回のセミナー。参加された方々をさらに笑顔にしたのは、アフタヌーンティーらしくプレートスタンドで運ばれてきたお菓子や点心。スコーンや角煮入り中華パーガーは、「萬千吉茶坊」オーナーでもあるお母様の手づくりとか。お店では、めずらしい白茶や黄茶をはじめ各種中国茶と、アジアデザートやお粥のランチが人気だそう。これを機会に、深遠なる中国茶の世界にもっともつと遊んでみたくなる。そんな午後でした。



けると、なんでも3つ買っちゃおう癖がある兼田さん。次は、オレンジ系のガラス瓶3個、黄色のグラスペティア、緑の威力。で花と器をつなぐアイビーを添え、つる植物を絡めています。「ねじれた葉の表情や風の悪戯で遊ぶ。うん、可愛い」家の庭に咲く花や雑草を生けて楽しむ。これが究極の贅沢だそうです。「あつ、雑草では可哀想。野草と呼んであげてくださいね」

花の季節感を合わせて。

兼田さんは、花束を作ったりアレンジする際に「色を合わせる」ことにごだわった時期がありました。早春の花と真夏の花、色彩的にはマッチしていても、なんか自分にしっくりこない。「なんでかなあ」と思っていたある日、ターシャ・テューダに出会ったのです。著名な絵本作家であると同時に、



NAMI KANETA

兼田名美 [フロリスト ombak 主宰]

1974年生まれ、静岡県静岡市在住。高校時代から花屋をめざし、恵泉学園短期大学園芸生活学科に学ぶ。卒業後、神奈川県茅ヶ崎市の花店に勤務。同時に母校で講師アシスタントを勤め、24歳の時、[ombak]を開店。現在では、花の仕入販売の他、ブライダル装花やブーケ制作なども行う。

締めくくりに、実践アレンジメント講座です。最初に「オアシス」の取扱説明から。「オアシス」とは、切り花を支える適度な硬さと優れた吸水性、

慈しみと花の精の心が交わり。

ガーデニングにも一言を持つターシャに「すごいシヨックを受けて」「価値観が変わる。このおばあちゃんは、基本的に家で育てた花でアレンジメントを楽しむ。赤・黄・橙・白・紫、色がちや混ぜであつても、同じ気候、同じ場所、同じ季節に咲く花同士は、違和感なく微笑んで。「迷いが吹っ切れて。私はいつも、花の色を合わせる」と、季節感を合わせることを、頭の片隅に置いています」さて、こんな経験が、ありますか。花束を頼んでも、自分のイメージしたものとは違う。花束まではよかつたのに、ラッピングしたら変。兼田さんは「自分の気に入る花屋を見つけた人はラッキー。行くのが待ち遠しくなりますもの」兼田さんのお店 ombak も、その候補ですよ、きっと。

確実な保水力を併せ持つフローラルフォームの代名詞です。大切なのは、じっくり水を吸わせること。「不十分だと、中が砂漠状態になるので花の命は短くなってしまふのです」花を一度挿した後、高さ調節のために引き上げるのは禁物。花の導管と「オアシス」との接点がなくなら、給水できません。一端抜いて別の場所へ、が正解。茎はくさび形に斜めにカット。水を吸い上げる断面積を広げ、安定感も増します。では本番。兼田さんがお手本を示し、「忠実になさる方、個性発揮の方、どちらも大歓迎です」花はオーニソガラム、バラとリトルシルバー・コデマリ、葉っぱはアイビー・ゲイラックス・グリーンハート。ワイヤーを使うという裏技も。花を愛でる優しい眼差しと真剣な手付きが柔らかに溶けこみ、エコムスフィットの小型アルミポットにアートな世界が咲き始めます。兼田さんは、二人ひとりに丁寧アドバイスしながら実に幸せそう。相変わらずの土砂降りも、心地よいBGMに聞こえてくるような錯覚に陥ってしまいました。

初めての人にもわかる ワインの魅力

いつもの食卓にワインを！！

ワインは楽しいもの

「ワインの飲み方にウンチクたれる先生がいる国は、世界中どこにもありません」セミナー開始早々、茶目つ気たぶりのジヤブ、眉間にしわを寄せて難しい知識を学ぶより「楽しんで好きなワインを見つけよう」という種本流ワインの世界に会場を引き込んでしまいました。とはいえ1990年、静岡初の女性ソムリエとして華々しく新聞紙面を飾った「ヴィノスやまざき」シニアワインアドバイザーの種本祐子氏。難関と言われるソムリエ資格保有者としての知識はもちろん相当なもの。また世界各国を自らの足で歩いてワインを探し求めた経験と実績。その上での「ワインは楽しむもの」という言葉には深いものがあります。

YUKOの誕生秘話

「甘くておいしい」そんな声や、会場から。最初のワインは甘くてポリフェノールたっぷり、アルコール度数も6%と通常の半分、種本氏の名前「E.P.E」を冠するヴィノスやまざきオリジナルです。このワイン誕生の裏には、同店を愛する口うるさいおばさま方の叱咤激励があったとか。そしてもう一つ、このワインをつくらうと言ってくれる生産者の協力がなければできなかったのです。世界のワイン畑を歩き、自らの舌で安くおいしいワインを探し出し、直接仕入れることで人気の同店。種本氏は、敬意にしている海外のある生産者に話をしてみました。ところが最初の返事はノー。実は甘くて低アルコールのワインを通常の醸造工程を経てつくるのは、とても難しいのだそう。でも奥様ベアさんのひと言が救ってくれました。「祐子がつくってというものは、日本のお客さんがつくれって言うてるのよ！」信頼関係がなければ出ないひと言。それから実に3年の年月を要して目の目を

見たワインを味わえるのは、ちよつと感動的。種本さんはよく「ワインは農産物」と言います。ワインはブランドではなく、無名の蔵でもおいしいものがある。そのつくり手たちの情熱と誠実さを、誰より知っているからこそ言葉がもたれません。

ワインの達人になる方法

2番目に試飲したのは「インペロ・ソアヴェ」というフルーティーな白ワイン。3番目は「アルタム シヤルドネリザープ」という白、樽香のあるまったりとした味わいは伊勢海老やオマール、クリム系の魚料理にぴったり。4番目は樽熟成させた赤ワイン「シャトール・トゥール・ボワセ マルセル」実はこのワインにもエピソードが。深みのある上質ワインをつくる樽はたいへん高価で、買えない生産者も多いのだと

か。種本氏はやはり信頼し家族ぐるみでつき合っているこの生産者に樽を提供、いいワインをつくってもらっているのです。5番目は白のデザートワイン「バライソ リースリング」全部の試飲が終わったところで、それぞれのワインについて「好き」「まあまあ」「嫌い」の多数決をとりました。結果は、すべての方が好きといったワインはありませんでした。「この答えのなかにワインを楽しむヒントがあるんです」と種本氏。それは「世界で一番おいしいワインは、あなたが好きなワイン」またワインの達人は、一緒に飲む手がどんなワインを好きか、気持ち察することが出来る人だとか。ワイン通になる近道は、ここを磨くことかもしれませんね。最後に、種本氏はこんなフランスの諺で締めくくってくれました。「飲むべし、友と語るべし、されどもワインは語るべし」



YUKO TANEMOTO

種本祐子 [ヴィノスやまざき シニアワインアドバイザー]

フェリス学院大学卒。静岡市商工会議所を経て、実家であるやまざき酒店へ入社。2003年より株式会社ヴィノスやまざき専務取締役。1994年から無名でも生産者の心と情熱のこもったワインを、蔵元から直接輸入し販売することをモットーに、リーズナブルで美味しいワインの普及に努めている。また「ワインは学ぶものではなく、楽しむもの」をテーマに全国各地でワインセミナーを開催。現地から蔵元を招いて、日本のお客様との交流会なども企画。「ワインは農産物」を啓蒙し、ワインをより一般の方々へ身近にしていこうと活動中。

- ・「サンテミリオン騎士」受賞
- ・「ナルボンヌの騎士」受賞
- ・日本ソムリエ協会認定シニアワインアドバイザー
- ・講師/静岡朝日テレビカルチャー、商業界セミナー

ecoms seminar vol.19



2004年5月21日(金) 13:30~15:30
グランシップ10F [1001-1会議室]



「木を自然」「アルミを現代」の象徴として、 「今」を表現していきたい

人は何かを失ったときにその存在感の大きさを改めて知ることとなる。環境破壊や絶える事のない民族間の争い…。彫刻という確かな存在を通じて、その意味を問いかける芸術家を取材した。

彫刻との出会いをお聞かせ下さい。

「美術の教員になろうと静岡大学教育学部に進学したのがスタートでした。誰かの作品に感動したのではなく、共に過ごした仲間に影響され、自然とこの道歩み始めていました」

様々な素材を使ってきたとお聞きしていますが。

「石や鉛、木、アルミ…いろいろな素材と接してきました。1つの素材に特化していると、技術だけが向上してしまいますよね。それより技術も知識も無いまま初めての素材に出会うと、どうやって接していくか…と

気持ちが自然に昂ぶってくる。それが作品をつくるコンセプトにもつながっていくんです」



を業者に頼んでいるのですが、そのプロセスを自分で行うことで作品の可能性が広がりました。アルミは視覚的に軽やかで、現代的な魅力を備えた素材だと思っています」

非常に独特な作風ですね。アルミと木で表現したかったことは何でしょうか。

「人はよく、当たり前のようにそこにあつたものがなくなつた時、その存在価値を改めて実感するものです。それをアルミという冷たさも優しさも兼ね備えている素材で表現してみようと思いました。そのひとつとして、自然が破壊されていく状況、つまり実際人間が行っている事を表現してみたいのです。裏表紙の「蜃気楼」という作品も、組まれた木の隙間にアルミが挿込まれた作品です。製造後、木は焼き取られ、そのかつてあつた痕跡だけが幻のように残っています。言わば無くなったものに対するオマージュですね」

作品のベースに、非常に哲学的な要素を感じますが…

「普段考えている事や、気になった事をできるだけ作品に取り込むようにしています。例えば写真の『Gloves for Peace』は今起きているさまざまなか地域紛争に対する私なりの提案として、対話の必要性を作品化したものです。このように、作品と今を生きて



「Gloves for Peace」

アルミのどのようなところに惹かれたのでしょうか。

「最初は鉛を使ってみたのですが、とにかく重いですね。木に直接金属を挿込んで作品を作るため、融点が高く軽量のアルミは最適の素材でした。普通、彫刻家は鑄造のプロセス

ている事とが、リアリティを持って繋がってくる時、作ることの意義を感じるので」

これからの作品にもアルミ素材を使われるのでしょうか。

「これまで同様に、素材を限定するのではなく、自然な形でアルミを使っていきたいと思えますね。非常に面白く、可能性のある素材だと思えますし、現代の象徴として、作品にどう生かしていくかと考えています。作品をつくるということは、素材と接し、そこから得た自分自身の考え方を形あるものに表現し、発信することだと思っています。バーチャルな世の中における、最低限の確かなもの。自分の目で見えて手で触れられる「彫刻」を通して、これからの自身の考えを表現していきたいです」



夏池 篤 [彫刻家]

1954年三重県生まれ。愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。国画会会員。1981~83年第3.4.5回松阪彫刻シンポジウム、1985年第17回現代日本美術展[東京都美術館]、1990~94年第2回、第3回倉敷まちかどの彫刻展[倉敷市立美術館]、1994年遍在する波動展[in Manila]、'95C.A.F展[埼玉近代美術館]、芝山野外アート展'99、2002年Contemporary Art & Design

Works [in Thailand]、2003年第20回現代日本彫刻展[宇部市野彫刻美術館] 個展[ギャラリー山口・なびす画廊・ときわ画廊・秋野不矩美術館]等。
http://www.geocities.jp/natsu_aa/

「松谷和子の変化する布たち展」

～Before After～

2004年7月3日(土)～11日(日) ecoms fit 静岡ショールーム



新緑が美しい岡部の山に囲まれた静かなたたずまい。トントンという機(はた)を織る音が心地よく響いてくる。50年以上もの昔の人が着ていた

藍の色は深い海の色だから…

藍の半纏(はんてん)をリメイクした服で出迎えてくれた松谷さん。藍色の作品はどれもみな美しいグラデーシオンを奏でている。藍は深い海の色。十数年前に海で亡くなった弟さんを想い、藍の古布で海の色を織りはじめたという。

松谷卓さんとタイトルについて…

ピアニストであり作曲家の松谷卓さんはお母様である和子さんの良き理解者。テレビ番組「ピアノアフター」の音楽を制作、「イマージュ3・4」にも収録され、今注目の若手アーティストである。今回の個展サブタイトルの「Before After」は住まいのリフォームと同様、布が変化する様を表現したかったとのこと。会期中も卓さんの心む曲をBGMに、深く清く、そして温かい藍の数々が展示される。

これからの裂き織り展望

「藍のみでなく「朝比奈和紙」も織り込んでみたい」と松谷さん。「地元の人たちが大切にしている想いも一緒に織り込んでいきたい」と今後の抱負を語ってくれた。

裂き織り体験してみませんか？

会期中には緑と光が射し込むショールームで機織り体験もできます。あなたの思い出の古布を素敵に織物に変えてみませんか。明るく元気な松谷さんがひとりずつ丁寧に教えてくださいます。詳細は静岡ショールームまでお問い合わせください。
エコムフィット静岡ショールーム
☎(054)655-11851



KAZUKO MATSUTANI

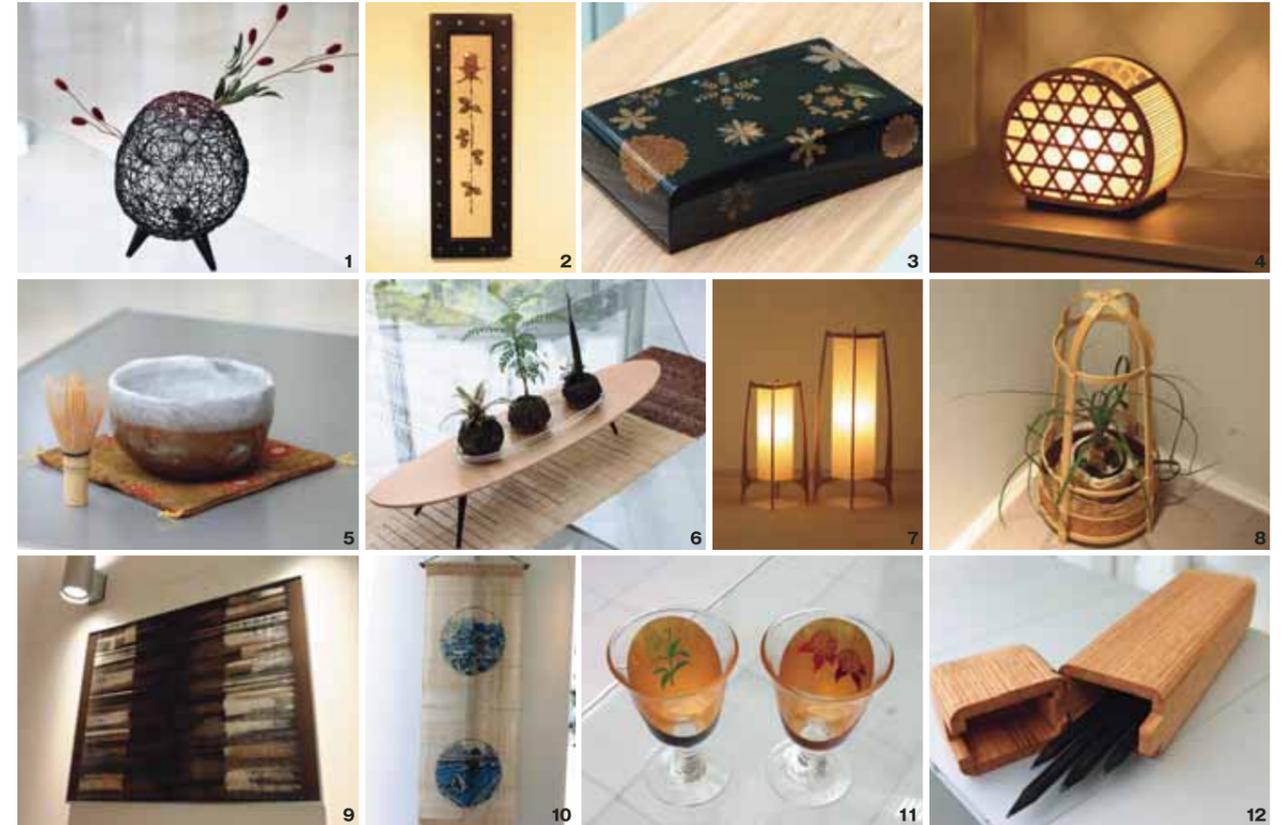
松谷和子 [裂織作家]

静岡県生まれ。岡部町在住 元SBS静岡放送キャスター。静岡県立美術館友の会理事。静岡二科写真会員。3回の個展を岡部町柏屋ギャラリーなまこ壁で開催「松谷和子の変化する布たち展」Vol.1～Vol.3。2004年第2回全国裂織公募展入選「藍調(あいのしらべ)」。テレビ朝日「大改造ピアノアフター」の作曲家松谷卓の母。2004年8月には第5回個展を柏屋ギャラリーで開催予定。



2004年4月10日(土)～18日(日)

「するがクリエイティブ」
こころなごむ新空間Ⅱ



アルミと静岡の伝統工芸品が織りなす「粋」の境地

シャープな空間を、伝統工芸品で温もりある生活シーンへと演出

昨年に引き続き2度目の出展となる、静岡の伝統工芸士12名による展示会が開催されました。

あたたかな温もりの木工芸、格調高い漆や蒔絵、布が様々な表情を見せる染物、繊細な竹細工、つい手にしたくなる器の数々。そのひとつひとつは職人技の迫力と、つくり手の誠実な人柄をあらわすかのような優しさに満ちあふれていました。

個性豊かなそれぞれの作品が、絶妙なバランスでコーディネートされたシーン。そこには新しい発見があり、常に私たちの目を楽ませてくれていました。

- 1 伊藤みちる
 - 2 大橋俊之
 - 3 佐野暢子
 - 4 黒田雅年
 - 5 笠間しのぶ
 - 6 岸本真紀
 - 7 松島富藏
 - 8 大村俊一
 - 9 鈴木緑
 - 10 増田雅一
 - 11 鳥羽俊行
 - 12 戸塚幹雄
- (写真番号順 敬称略)

ecomys 次号予告

8月末発行予定



「仮設アルミ建築の可能性」

～「海の家」で実証するアルミ構造の仮設建築～

7月1日 葉山にオープンしたアルミ構造による「海の家」。
組み立て・取り壊しが簡単で、レンタルも可能な仮設建築のこれからを、
アルミ建築を通して考えます。

CATALOG INTRODUCTION



No.1
現在バックナンバーはございません。



No.2
現在バックナンバーはございません。



No.3
現在バックナンバーはございません。



No.4
現在バックナンバーはございません。



No.5
現在バックナンバーはございません。



No.6



No.7



No.8

家具シリーズ



ecomysコンセプト



テーブル



チェア



クローゼット



キッチン



ベッド



ソファ



キャビネット

Y-SERIES



Refresh Counter



Grid Shelf

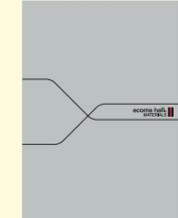


S-chair



S-table

アルミ建築部材カタログ



情報誌シリーズ・各カタログのご請求先

①住所 ②氏名 ③希望のカタログ名(または情報誌のナンバー) ④部数を明記の上、郵送・ファックスまたはHPよりEメールでお申し込みください。
不明な点などは、弊社広報担当までお問い合わせください。
静岡ショールーム 〒422-8007 静岡市聖一色654-6 TEL.054-655-1851(代) FAX.054-655-1852(水曜定休)
東京ショールーム 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-1 マリオンビル1・2F TEL.03-5413-7722(代) FAX.03-5413-7723(火曜定休)
九州エコムスハウス〒841-0005 佐賀県鳥栖市弥生が丘7-36 TEL.0942-87-3227(代) FAX.0942-87-3205(水曜定休)

会社案内



SUS FA総合カタログ



Sing No.4



Sing No.5



総合カタログ・情報誌Singに関してのお問い合わせは
ユニット営業チーム TEL0543-61-0200(代) FAX0543-61-0202
東京営業所 TEL03-5368-0383(代) FAX03-5368-0384
大阪営業所 TEL06-6855-5522(代) FAX06-6855-5595
九州事業所 TEL0942-87-5270(代) FAX0942-87-5010

ecomysは、2ヶ月に1回の発行です。

おめでとうございます
ecomys 8号「Lunettes Porter (メガネケース)」
プレゼント当選者

群馬県 高橋英一様
静岡県 内田幸一様

静岡県 木村慶乃様
福岡県 松本節子様

大阪府 嘉見哲志様